

11/6 星期

装備先行

議論も去り

政府が、敵基地攻撃能力（反撃能力）への転用が可能な長射程ミサイルの配備計画を加速させている。象徴的なのが米国製巡航ミサイル「トマホーク」の取得検討だ。精密攻撃用兵器とされ、政府が検討中としている攻撃能力の保有が既定路線となりつつある。だが保有の是非は与党協議でも結論が出ておらず、装備先行の印象は否めない。戦後掲げ続けた専守防衛の理念はかすんでいる。

攻撃能力保有が前提に

△ 一体化 長射程ミサイルの配備計 画は、2010年1月に 当時の菅内閣が敵の射程圏	12式地対艦誘導弾	
	島しょ防衛用高速滑空弾	早期装備型 数百キロ程度 性能向上型 千数百キロ程度
JSM 約500キロ		外から攻撃可能な「スタン
JASSM 約900キロ	ド・オフ防衛能力」の強化	ド・オフ防衛能力」の強化
トマホーク 1000キロ以上	を閣議決定した」とで一氣に進んだ。	を閣議決定した」とで一氣に進んだ。

※画像は防衛省提供、ロイター

防衛省は、陸上自衛隊の12式地対艦誘導弾を改風して射程を千キロ程度に延伸する開発に着手。射程五百〜九百キロの海外製ミサイル取得も次々と決めた。主力の12式誘導弾改良型の配備は二六年度（2011年）に予定されるため、「当面の抑止力をどう確保するか」（防衛省幹部）が課題に浮上。米軍が一九九一年の湾岸戦争で実戦投入し、二〇一七年のシリア攻撃でも使った「即戦力」であるトマホーク（射程千キロ以上）の取得計画が現実味を帯びた。

米国の厳しい輸出規制の対象だが、自衛隊と米軍で進む装備の一体化を踏まえ、外交筋は「日本政府が敵基地攻撃能力を保有する」と眞似すれば、売却交渉が

防衛省は、陸上自衛隊の12式地対艦誘導弾を改風して射程を千キロ程度に延伸する開発に着手。射程五百〜九百キロの海外製ミサイル取得も次々と決めた。主力の12式誘導弾改良型の配備は二六年度（2011年）に予定されるため、「当面の抑止力をどう確保するか」（防衛省幹部）が課題に浮上。米軍が一九九一年の湾岸戦争で実戦投入し、二〇一七年のシリア攻撃でも使った「即戦力」であるトマホーク（射程千キロ以上）の取得計画が現実味を帯びた。

だが、歴代政権は政策判断として日米同盟に基づいて米国の打撃力に依存し、敵基地攻撃を目的とした装備体系を保有していないかった。「防衛力を自衛のための必要最小限のものに限る」とした専守防衛の理念を踏まえ、攻撃的兵器の取得を自制していたためだ。

岸田文雄首相は今年五月の国会答弁で「専守防衛の定義を変更する考えはない」と明言した。一方、政府関係者は懸念を交え、「うつ指摘する」「地域の軍事的緊張を高めたためにも、運用は防衛目的だと国内外への説明に努める重要な性が増している」

本格化するかと思われる。

△ 対質

敵基地攻撃は、「一九五六

年に当時の鳩山一郎首

相が国会で「他に適當な手

段のない場合に至して死を

待つのが憲法の趣旨とは考

えられない」と答弁し、自

衛の範囲に含まれると解釈

されました。

ホークは発射地点によって

は北朝鮮や中国本土の一部

が射程に入り、攻撃的側面

が強い。専守防衛の定義か

ら外れる可能性があり、周

辺国が「事実上の戦略転

換」と警戒を強める恐れは

している。

ただ、12式誘導弾やアマ

ムの説明に努める重要な性